

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎・基本の確実な理解と定着を図るため、授業内での振り返りや学習計画を考察する時間を一層充実させ、生徒が自ら学び方を調整できるようにする必要がある。朝学習では、基礎・基本の定着に加え、自らの学習を見直す活動を継続し、日々の学びを積み重ねる。また、家庭学習の不足が知識の定着に結びついていないことから、家庭での学習に見直しをもてるように、学習計画の考察やその取組を丁寧に支援していく必要がある。さらに、ICTの活用など生徒が粘り強く課題に向き合う姿勢を育成する授業づくりを進め、継続的な学習に向かう力を育てることで、学力向上を着実に図っていく。
思考・判断・表現	生徒が資料や根拠をもとに自分の考えを分かりやすく表現する力をさらに高めることが課題となる。そのために、授業ではワークシートやレポート等を活用した表現活動を継続して設定し、根拠を示しながら考えをまとめる機会をより充実させていく。また、対話的な学びを一層推進し、話し合いの中で多様な視点に触れ、自らの考えを深める経験を積ませることが重要である。ICTを活用した発表の活動も引き続き取り入れ、表現が苦手な生徒も参加しやすい環境を整える。さらに、文章の構成や展開に着目して考える力を育成し、協働的な学びをおして思考力の伸長を図ることで、主体的に学び姿勢を定着させていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能が定着していない。 学習習慣が定着していない。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための時間の確保が少ない。 主体的に家庭学習の状況を振り返る時間が確保されていない。	⇒ 授業中に生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間を設定する【毎時間設定】。 朝学習で生徒が自ら学習するとともに、学習の振り返りをする【毎朝】
思考・判断・表現	<学習上の課題>自分の考えを言葉で表すことに苦手意識があり、「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率が高い。 <指導上の課題>自分の考えを明確に説明する活動や他者と教え合ったり高め合ったりするような授業が少ない。	⇒ 生徒がワークシート・作品・レポート等を作成する機会を設ける。【毎回の授業で実施】 生徒が主体的に課題に対して話し合う機会を設ける。【毎回の授業で実施】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	1 結果分析(管理職・学年主任等) 2 火曜・木曜に20分間の朝学習を設けて学習時間を確保し、各学年で基礎・基本の定着を重視した課題に取り組んだ。基礎学力の向上を図っているものの、家庭学習時間の不足により知識の定着には課題が見られる。今後は、家庭学習の充実を図るための支援や働きかけを一層強めていく必要がある。
思考・判断・表現	B	3 職員会議・校内研修等 各教科で話し合い活動を推進し、考えを表現する機会の充実を図ってきた。また、話し合いの場ではICT活用も進み、タブレット等を用いた発表が増えたことで、表現が苦手な生徒も参加しやすい環境が整いつつある。今後は、対話をとおして思考を深め合う活動の質をさらに高めていくことが求められる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学の「数と式」の領域において、特に「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。数量を文字で用いた式で表すことの理解が不十分であると考えられる。学習状況では、「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」では、肯定的な回答が85.2%であったため、生徒の粘り強く学習に取り組む姿勢を意識した授業を継続していく。
思考・判断・表現	国語の「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題において課題が見られた。資料等の根拠を用いた、自分の考えを表現することが不十分であると考えられる。学習状況では、「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確に考えていますか」では、肯定的な回答が90.1%であったため、文章の構成や展開を理解して上で、協働的な学びの場面を活用して、生徒の個に応じた考える力を高めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語においては、知識・技能が市平均に近づき、朝学習で国語に重点的に取り組んできた成果が表れていると考えられる。朝学習では基礎・基本の定着を目標に継続的な学習を行ってきたことが、この結果につながった要因である。また、我が国の言語文化に関する事項では、優れた結果が示されており、日頃の学習を通して言語文化への理解が深まりつつあることがうかがえる。これらの結果を踏まえ、今後も基礎学力の向上と文化理解を支える学習活動の充実を図っていく必要がある。
思考・判断・表現	国語・数学・社会・理科のいずれの教科においても、異集団の経年比較では令和6年度と令和7年度で同程度の学力水準であることが分かった。一方、同一集団での経年比較では、現在の2年生が1年生時と比べて思考・判断・表現の面で課題を示す項目が見られた。これらの結果を踏まえ、思考力を高めるための主体的に対話的な学習活動をさらに推進し、深い学びにつながる授業改善を継続する必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習をとり入れて、継続的な学習をすることができた。 朝学習で生徒がより深い学習をするために、授業中での学習を振り返る時間や、学習計画を立てる時間を増やしていく必要がある。そのために、タイムマネジメントをよりしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒がワークシートへの書き込みや作品の創作に、精力的に取り組めるように、課題の提示や評価方法の明示をすることができた。 意欲的に授業に取り組めるように、対話的な学びを積極的にとり入れた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)